

## 私の大切な家族

栗島浦村立栗島浦中学校 2年 本 保 たから

2012年12月31日。この日のことを、私は忘れることができません。この日、私にとって大切な家族が、死んでしまいました。

みなさんの身近なところには何か動物がいますか。それはどんな動物ですか。犬ですか。それとも猫でしょうか。その動物は、みなさんにとってどんな存在ですか。ペット、友達、家族。それは人によってさまざまだと思います。家庭で犬や猫を飼っている人からは、よく「犬や猫も家族の一員だ」と聞きます。確かにそうかもしれません。しかし、家族になる動物は、何も犬や猫だけではないと思います。私にとっての一番身近な動物は馬です。人口約350人の栗島の馬。馬はこの島をより魅力的にしてくれています。私はそんな馬を、今では家族のように大切な存在だと考えています。

私がそう考えるようになったのは、一昨年冬に起こったある出来事がきっかけでした。

それ以前の私は、馬の存在についてそれほど深く考えてはいませんでした。当時、私は友達から、

「たからにとって馬ってどんな存在なの。」と聞かれたことがありました。その時も私は、軽い気持ちで、

「馬は自分の心を癒してくれる友達みたいなもの。」

と答えていました。

そんなときでした。2012年12月29日。真冬。私がとても大好きだった馬が、馬場で倒れました。その時の馬の様子は今でもはっきりと覚えています。すごくやせて、息が荒く、とても苦しそうにしていました。私は牧場スタッフの方たちと一緒にできる限りのことをしようと思いました。スタッフの方たちは真冬にも関わらず、屋外で、24時間体制で看病をしてくれました。しかし、私が看病に行くことができたのは日中だけでした。そんな私ができることは、餌をあげるのとただなでてあげることだけでした。動物病院にも電話をしました。しかし、海が荒れていたため、獣医の先生は島に来ることができませんでした。私はとても悔しかったです。「島に獣医がいてくれたら……。」と心の底から思いました。

そして、その年の12月31日。私も、牧場のスタッフの方たちも、そして、馬自身も一生懸命頑張りましたが、ついに助けることができませんでした。私は泣き続けました。物凄く悲しかったです。そのとき私は、身近な動物が死んでしまうことは、家族が死んでしまうことと同じくらい悲しくて怖いことなのだと初めて感じました。

それからの私は、馬はとても大切な家族のような存在だと考えるようになりました。また、あの日のことで、大好きな馬もいつかは死んでしまうこと、死んでしまってから存在の大切さに気付いても遅いことを学びました。だから私は、これからできる限りたくさんの時間を、たくさんの馬と触れ合っていきたいです。そんな私の今の目標は、大好きな馬と一緒に大きな馬術大会に出場することです。また、あの日のことがきっかけとなり、私は将来、獣医になりたいという気持ちも芽生えました。

このように、私は馬を通して数多くのことを学んできました。そしてさらに、馬は私に目標や夢を与えてくれたのです。

みなさんの身近なところにはどんな動物がいますか。その動物は、みなさんにとってどんな存在ですか。

私の身近には馬がいます。馬は私の大切な大切な家族です。